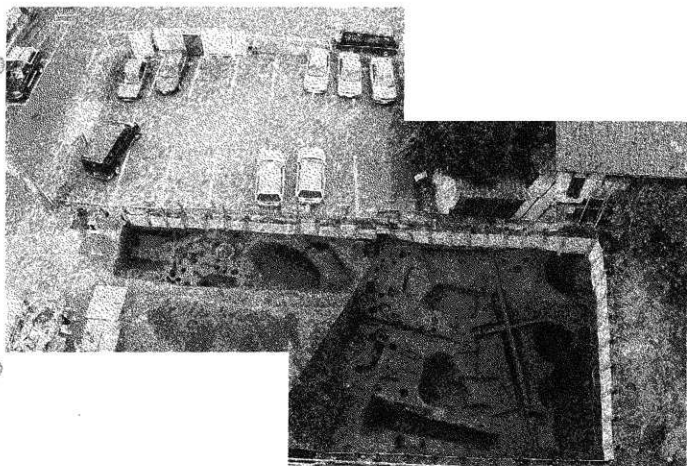


豎三蔵通遺跡

—第14次調査の概要—



1999

名古屋市教育委員会

例 言

- 1 本書は、名古屋市中区栄一丁目に所在する琴三庵通遺跡第14次発掘調査の概要報告書である。

調査位置 名古屋市中区栄一丁目2434、2435
調査面積 約240㎡
調査期間 平成10年10月28日～平成10年11月30日
調査主体 名古屋市教育委員会
担当者 服部哲也・水野裕之（名古屋市見晴台考古資料館）
資料保管 名古屋市見晴台考古資料館

- 2 本書の編集、執筆は水野が行なったが、出土品の整理にあたっては、服部の他、同資料館の伊藤正人、伊藤厚史、村木誠の協力を得た。また、名古屋市博物館の松村冬樹、浅野弘子氏からご教示頂いた。

〔表紙写真は、調査区全景（合成）〕

目 次

I 遺跡の概要	2
II 調査の経過	5
III 遺構と遺物	5
1 基本土層	5
2 古墳時代以前	5
3 古墳時代	7
4 古代・中世	11
5 近世	12
6 明治時代以降	18
IV ま と め	19

I 遺跡の概要

竪三蔵通遺跡は、名古屋市の都心部に近い標高8～9mほどの台地上に立地し、東西約400m、南北約250mの範囲におよぼと推定されている。

これまでの調査によって、名古屋では数少ない旧石器時代から縄文時代各時期の資料をはじめ、弥生時代後期や古墳時代中頃以降、近世に至るまで豊富な資料を提供している。特に、周辺の田楽川遺跡、白川公園遺跡との関係は、縄文時代や近世名古屋城下町などの遺跡を考えるうえで重要である。



図1 調査地点（矢印）と周辺遺跡



図2 調査位置図（○印）（1：25,000地形図「名古屋北部」、「名古屋南部」による）



写真1 調査地点遠景（東からみる）

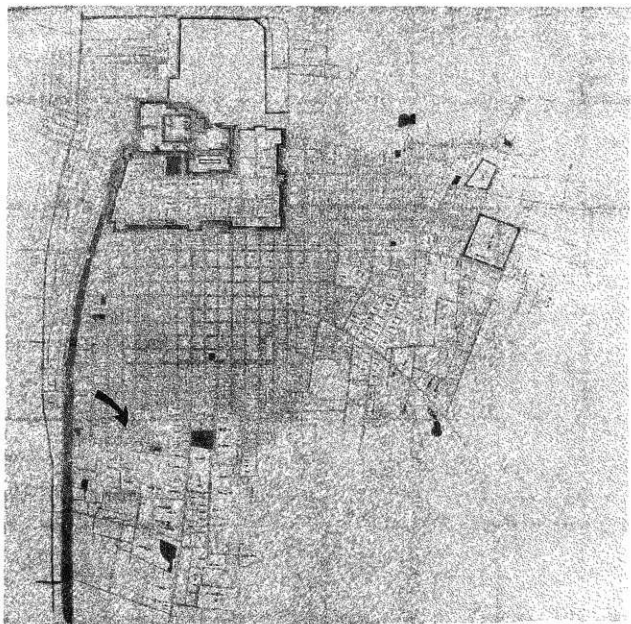
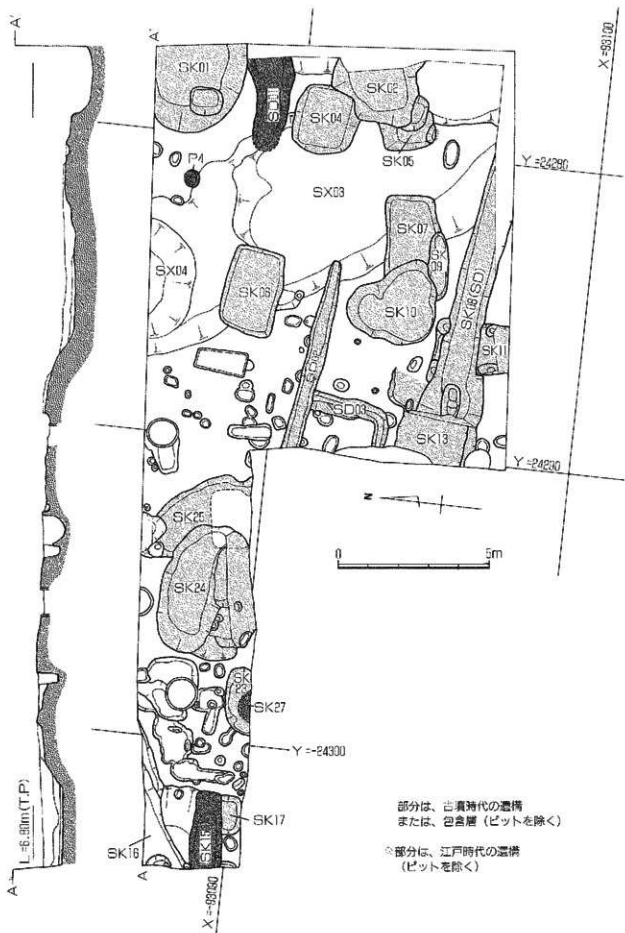


写真2 城下町絵図（註1）による調査位置（矢印）



部分は、古墳時代の遺構
または、包含層（ピットを除く）

◎部分は、江戸時代の遺構
（ピットを除く）

図3 調査区遺構位置図

II 調査の経過

調査は、発掘による排土を敷地内に積み置く条件であったため、調査区の東側を済ませ、埋め戻した後に西側の調査を11月17日より行なった。また、調査区(後の工事区域)の回りをH鋼と横矢板によって上留めを行なったために地山面までの土層記録が充分でなかった。

III 遺構と遺物

1 基本土層

当調査地点の東側は、その先がかつて谷地形であったことを示すように地山(更新世の熱田層)が下がって斜面をつくっており、現地表から1.5~1.9mほどで地山となる。この付近には古墳時代に形成された暗褐色土層が40cm以上堆積していた。一方、西側では、地山面までは50~80cmほどであり、古墳時代の包含層は一部しか無く上に近世土層が乗る。

2 古墳時代以前

●旧石器時代

当遺跡では、これまでに遺跡範囲の南端部や今回の調査地点に近い東端部付近でナイフ形石器や縦長刺片などの旧石器時代の遺物が縄文時代の遺物などと共に検出されている。図4の1~3は該期の可能性がある。

●縄文時代

調査区の東側で残存していた古墳時代の包含層(SX03-04)や古墳時代の遺構(SK16)などから縄文時代中期?(1点)、後期(65点)、晩期(86点)の縄文土器片(大半が5cm以下で、総数300点ほどあり、無文部分で時期を決めなかった約140点を含む)と石鏃などの石器が出土した。

かつて付近の台地上にあった縄文(旧石器)時代以降の遺物や遺構は、古墳時代に至るまで自然的あるいは人為的作用によって浸食されたと考えられる。該期の遺構はこれまで検出されていない。

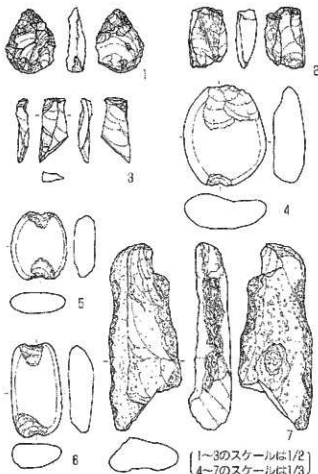
●弥生時代

古墳時代の土層中に混入したかたちで、弥生時代後期の土器片が検出されている。

今回の調査地点付近ではこの時期の遺物は少ないが、遺跡範囲の南端部分では後期の土器を包含する土層が確認されている。



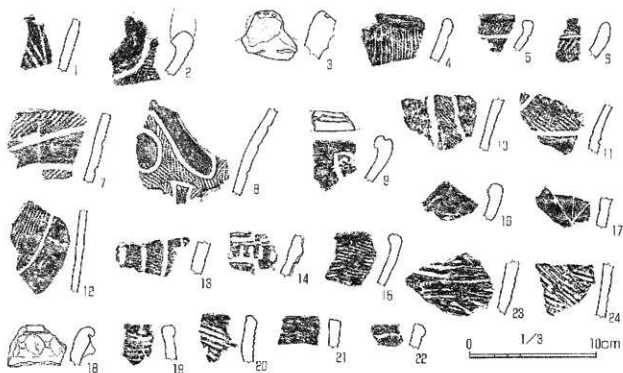
写真3 調査の状況



1~3のスケールは1/2
4~7のスケールは1/3

番号	品名	出土位置	材質	時期
1	尖頭型	SX03(南東)	チャート	旧石器または縄文
2	縦形石片	※(=)	不明(灰色燧石)	※
3	刺片	SD02(北)	チャート	旧石器
4	石尖石鏃	SX03(北東)	燧石(燧石か)	縄文
5	※	※(南東)	※	※
6	※	※(北東)	※	※
7	石鏃または石質鏃(燧石)	※(南東)	褐色片石か	※

図4 出土した主な石器



時期	出土位置	時期	出土位置	時期	出土位置
1	中期末か SX03 (南東)	9	後期初頭～前半 SX03 (南東)	17	後期か SX03 (南東)
2	後期初頭 SX03 (南東)	10	後期前半 SX04	18	晩期 SX03 (北東)
3	後期初頭 SX03 (北東)	11	後期前半 SX03 (南西)	19	晩期 SX03 (南東)
4	後期初頭 SX03 (南東)	12	後期前半 SX03 (南東)	20	晩期 SX03 (北半)
5	後期初頭 SX03 (南東)	13	後期前半 SK16	21	晩期 SX03 (南東)
6	後期初頭 P10	14	後期 SX04	22	晩期 SK16
7	後期初頭 SK16	15	後期か SX03 (南東)	23	晩期 SX03 (南東)
8	後期初頭 SX03 (南西)	16	後期か SX03 (南東)	24	晩期 SK16

図5 主な彌生土器

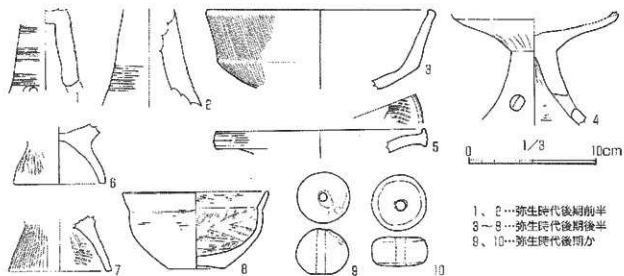


図6 主な弥生土器

1、2…弥生時代後期前半
3-8…弥生時代後期後半
9、10…弥生時代後期か

3 古墳時代

● SK16

調査区の北西端で検出された地山面を40cmほど掘り下げた遺構で、北東から南西方向の一辺の一部が検出された。部分的な検出ではあるが、現時点では竪穴住居跡とした。遺構の底(床)にあたる部分には、ほぼ水平に白黄色シルトブロックを10cmほど貼ったような状況であった。壁にあたる部分には、外にひらき傾斜がやや緩い斜面をなすようである。床面貼土を切ってつくられたピットからは出土遺物がなく、貼土と同じ土の塊が埋土中に検出された。柱痕は確認できなかった。

床面付近では良好な遺物が無かったが、埋土中には、5世紀前葉頃と思われる土師器が比較的多く検出された。なお、須恵器は検出されなかった。



写真4 SK16



写真5 SK16内のピット

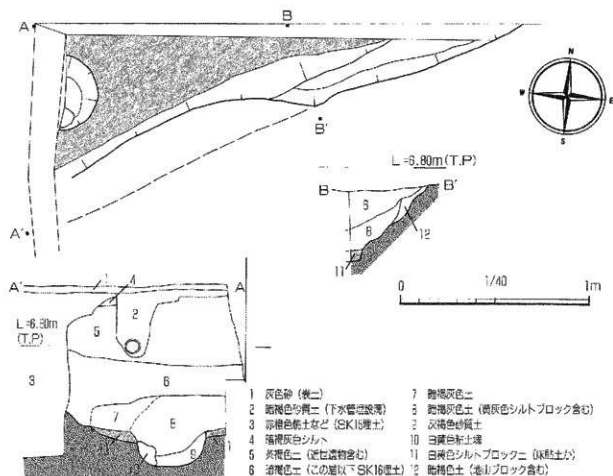


図7 SK16平面図・断面図

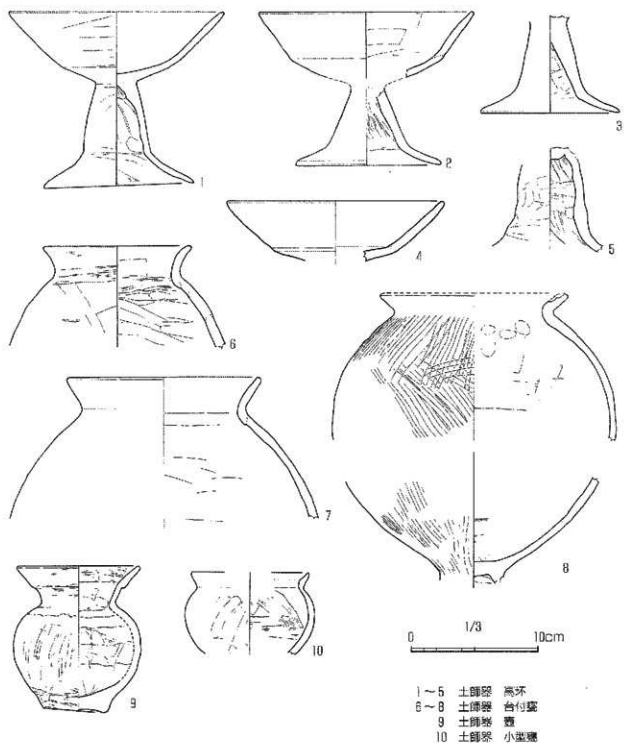


図8 SK16の主な出土遺物

● SX03・04

SX03・04は、調査区東半で、その東側が谷地形になっていく地形の一段下がった面およびその斜面付近に後世の浸食を免れたかたちで残存し広がっていた暗褐色土層の範囲を指す。SX03とSX04は、それぞれ凹地状に検出された部分である。当土層の上位層では比較的古い時期の須恵器(図10)を含んでいるが、下位層では地山面まで須恵器は出土せず5世紀前半頃までの遺物を包含している。ただし、当土層中での上位層と下位層の識別は困難な状態であった。

SX04からは、銅鏃と鉄鏃が一点ずつ出土した(図9)。

1の銅鏃は、体部の最大幅が先端寄りにあたるため五角形鏃かと思われる例である。弥生時代後期にさかのぼる可能性が高い。

2の鉄鏃は、形状が錆化のため不明瞭であるが柳葉式の籠嘴に収まるであろう。刃部と茎の間が籠被(のかつぎ)状に太くみえることから古墳時代前期に相当するものであろうか。



写真6 SX03

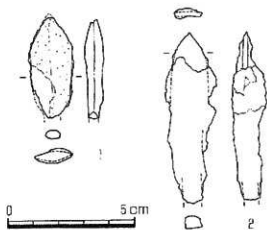
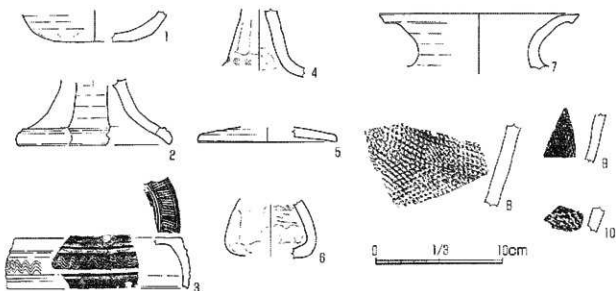


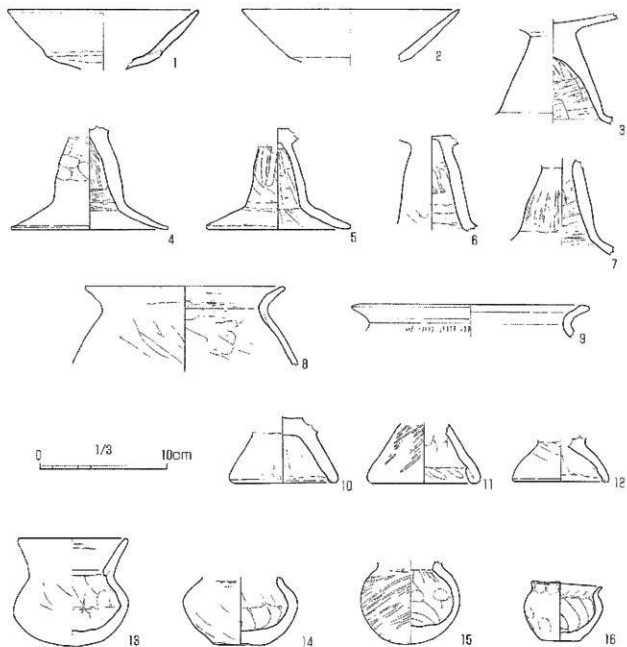
図9 SX04出土銅鏃・鉄鏃



- | | |
|--------|-----------------|
| 1 杯 | 5 高坏胴部 |
| 2 高坏脚部 | 6 小型鉢? |
| 3 蓋か | 7 蓋・裏口部 |
| 4 高坏脚部 | 8 蓋・腰脚部 (格子目叩き) |

- | |
|----------------|
| 9 蓋・裏脚部 (縄叩き) |
| 10 蓋・裏脚部 (縄叩き) |

図10 SX03・SX04出土の主な須恵器



番号	器種	出土位置	番号	器種	出土位置
1	土師器 高坏	SX04	9	土師器 台付鉢	SX04
2	土師器 高坏	SX04	10	土師器 台付鉢	SX04
3	土師器 高坏	SX04	11	土師器 台付鉢	SX04
4	土師器 高坏	SX04	12	土師器 台付鉢	SX04
5	土師器 高坏	SX04	13	土師器 小型鉢	SX04
6	土師器 高坏	SX03 (北東)	14	土師器 小型壺	SX04
7	土師器 高坏	SX03 (北西)	15	土師器 小型鉢	SX04
8	土師器 台付鉢	SX04	16	土師器 小型鉢	SX03 (北西)

図11 SX03・SX04出土土師器

●ピット

ピットは60基あまり検出したが、古代・中世以前のものと同近代以降と考えられるものが多く、近世名古屋城下町の圧敷建物に関係する明確な柱穴は確認できなかった。その他の時期のピットも、建物あるいは他の性格が推定できる遺構はほとんどなかった。

そのようななかで、P4は、7世紀後半～8世紀前半頃と思われる2点の須臾器(図12)が、ピット内に埋設した状態で出土した。

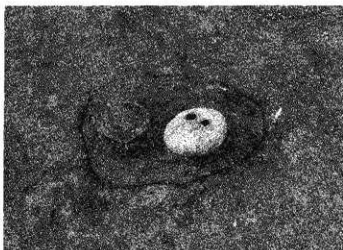


写真7 P4須臾器出土状況

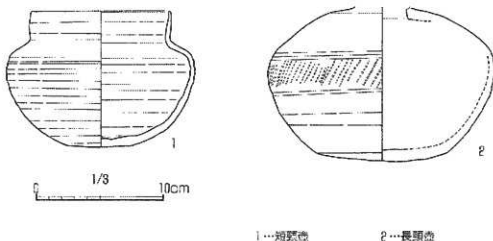


図12 P4出土の須臾器

4 古代・中世

当調査地点の古代から中世にかけては、遺構・遺物ともに希薄であるといえるが、江戸初期の土坑などから、灰釉陶器片や山茶碗片が混入して検出されている。

これまでの調査では、遺跡範囲の西側に奈良～平安時代の竪穴住居跡等が、また南側では中世の井戸、溝等が検出されている。

●SD01

調査区の北東部で検出された溝状遺構である。西端部(写真手前側)は、ほぼこの位置で終わっていたが、東側は、調査区外へ続くようである。埋土は、灰褐色土で均質であり、山茶碗の小片がわずかに出土した。

なお、当遺構上面と思われる位置から13世紀前葉頃の山茶碗小皿が検出されている。



写真8 SD01

5 近世

当遺跡は、近世には名古屋城下町の南西部に位置し、東西南北に整然と割り付けられた下級武家屋敷地となったところである。これまでの各地点の発掘調査によって、谷地形の低い部分に盛土した場所や、江戸初期の屋敷地割に関連すると思われる溝、そして、「紫川」と呼ばれた都市河川の遺構など、城下町遺構を総合的に捉える際の重要な成果があった。また、各地点とも遺構・遺物の量で大多数を占めるのが、各屋敷の中庭や裏庭などに掘られた穴蔵（地下室）や廃棄土坑である。



写真9 近世遺構の調査状況

- SK01 [数値は最大値、深さは地山面からの値を示す。以下同。]

〈形状〉 不整形円形
 〈長さ〉 3 m以上
 〈幅〉 3.5 m前後
 〈深さ〉 1.32 m
 〈埋土〉 灰褐色砂質土

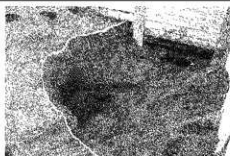


写真10 SK01

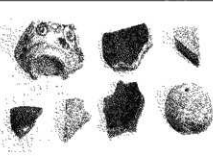


写真11 主な出土遺物

〈主な遺物と時期〉 肥前染付磁器碗・皿・猪口・小瓶、瀬戸美濃陶器碗、土師皿、内耳鍋、瓦、磁石、軽石（穿孔あり）。17世紀中頃か。
 〈遺構の性格など〉 廃棄土坑か

● SK02

〈形状〉 方形か
 〈長さ〉 2.8 m
 〈幅〉 2 m以上
 〈深さ〉 1.3 m
 〈埋土〉 灰褐色砂質土

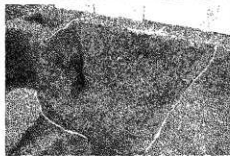


写真12 SK02

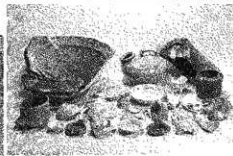


写真13 主な出土遺物

〈主な遺物と時期〉 肥前染付磁器碗・皿・猪口・小瓶、瀬戸美濃陶器碗・皿・しびん・汁次・土瓶・鍋・蓋・壺物・徳利・搦鉢・花瓶・鉢・水鉢・植木鉢・灯明皿・同受皿・灯火具、信楽系碗・土瓶、常滑甕、土人形、土鈴、土師器漏斗、ほうろく鍋、土師皿、丸瓦、平瓦。18～19世紀前半。
 〈遺構の性格〉 穴蔵（地下室→ちかむろ）→廃棄土坑か

● SK04

- 〈形状〉 方形
〈長さ〉 2.3m
〈幅〉 2.3m
〈深さ〉 1.46m
〈埋土〉 灰褐色砂質土

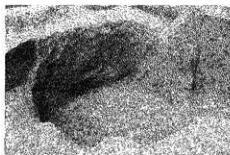


写真14 SK04

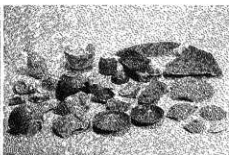


写真15 主な出土遺物

〈主な遺物と時期〉 肥前白磁瓶、肥前染付磁器碗、肥前陶器碗、瀬戸美濃陶器碗・小皿・播鉢・餌播鉢・香炉・蓋・灰落し・水注、常滑あかもの火容、土師皿、内耳鍋、平瓦。18世紀。

〈遺構の性格〉 穴蔵→廃棄土坑か

● SK05

- 〈形状〉 方形か
〈長さ〉 1.8m
〈幅〉 1m以上
〈深さ〉 0.75m
〈埋土〉 灰褐色土

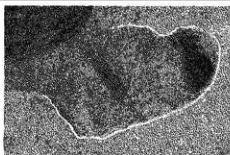


写真16 SK05

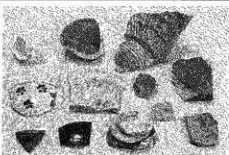


写真17 主な出土遺物

〈主な遺物と時期〉 肥前染付磁器碗、肥前（中川？）白磁小杯、瀬戸美濃陶器碗・皿・播鉢・餌播鉢・加工川盤、内耳鍋、土師皿、瓦。17世紀中頃～18世紀。

〈遺構の性格〉 廃棄土坑か

● SK06

- 〈形状〉 方形
〈長さ〉 2.9m
〈幅〉 1.9m
〈深さ〉 0.92m
〈埋土〉 灰黄褐色土



写真18 SK06

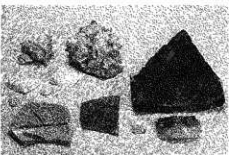


写真19 主な出土遺物

〈主な遺物と時期〉 瀬戸美濃陶器碗・鉢・播鉢・水筒、平瓦、貝殻（サザエ・ハマグリ）・アサリ・シジミ）。18世紀中頃か。

〈遺構の性格〉 穴蔵→廃棄土坑か

● SK07

- 〈形状〉 方形
〈長さ〉 2.8m以上
〈幅〉 1.8m
〈深さ〉 0.24m
〈埋土〉 灰褐色土

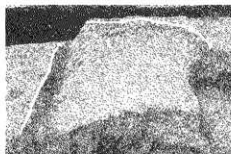


写真20 SK07

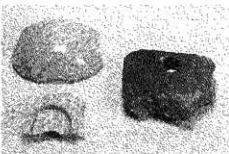


写真21 主な出土遺物

〈主な遺物と時期〉 瀬戸美濃陶器碗、瓦。18世紀。

〈遺構の性格〉 穴蔵・廃棄土坑か

● SK09

- 〈形状〉 長楕円形
〈長さ〉 2.3m
〈幅〉 0.7m
〈深さ〉 0.31m
〈埋土〉 灰褐色土

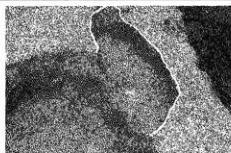


写真22 SK09

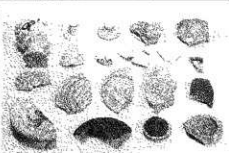


写真23 主な出土遺物

〈主な遺物と時期〉 肥前染付磁器碗・仏飯器・小瓶、肥前青磁碗、肥前陶器？皿、瀬戸美濃陶器碗・皿、上師皿。17世紀。

〈遺構の性格〉 廃棄土坑か

● SK10

- 〈形状〉 不整形
〈長さ〉 3.0m
〈幅〉 2.9m
〈深さ〉 1.09m
〈埋土〉 灰褐色土

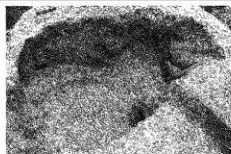


写真24 SK10



写真25 主な出土遺物

〈主な遺物と時期〉 肥前染付磁器碗、肥前色絵磁器水滴、瀬戸美濃陶器碗・皿・鉢・双耳壺・播鉢、常滑甕、上師皿、内耳鉢、瓦、石碗。17世紀～18世紀前半。

〈遺構の性格〉 廃棄土坑か

● SK11

〈形状〉 方形
 〈長さ〉 2.5m以上
 〈幅〉 2.1m
 〈深さ〉 0.5m
 〈埋土〉 灰色土、灰黄色
 土



写真26 SK11

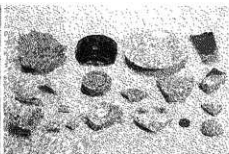


写真27 主な出土遺物

〈主な遺物と時期〉 肥前染付時期碗・皿、肥前青磁皿、肥前色絵磁器碗、瀬戸美濃陶器碗・皿・鉢・鉢・播鉢、土師皿（手づくね小皿）、基石（黒）。17世紀中頃か。

〈遺構の性格〉 穴蔵か（土坑壁際にピットあり）

● SK13

〈形状〉 不整形方形
 〈長さ〉 2.3~2.8m
 〈幅〉 1.5m以上
 〈深さ〉 0.25m
 〈埋土〉 灰色砂質土



写真28 SK13

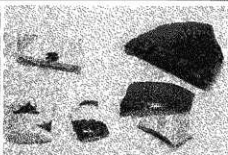


写真29 主な出土遺物

〈主な遺物と時期〉 肥前染付磁器碗、瀬戸？染付磁器碗、瀬戸美濃陶器土瓶、徳利（生産地不明）。19世紀中頃。

〈遺構の性格〉 廃棄土坑か

● SK17

〈形状〉 方形
 〈長さ〉 1.3m
 〈幅〉 0.7m以上
 〈深さ〉 0.35m
 〈埋土〉 灰褐色土

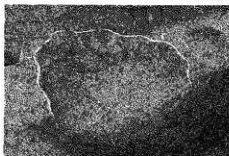


写真30 SK17

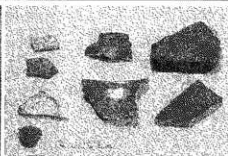


写真31 主な出土遺物

〈主な遺物と時期〉 肥前染付磁器碗、瀬戸美濃陶器碗・双耳壺・播鉢・鍋、瓦、かんざし（ガラス製）、火打石（養老龍潭チャート）。18世紀後半。

〈遺構の性格〉 廃棄土坑か

● SK23

〈形状〉 楕円形か
〈長さ〉 2.2m
〈幅〉 0.8m以上
〈深さ〉 0.78m
〈埋土〉 灰褐色土



写真32 SK23

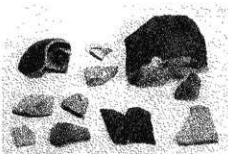


写真33 主な出土遺物

〈主な遺物と時期〉 瀬戸美濃陶器碗・皿、土師皿、ほうろく鍋、瓦、砥石、火打石
(チャート礫)。17世紀。

〈遺構の性格〉 廃棄土坑か

● SK24

〈形状〉 不整円形
〈長さ〉 4.4m
〈幅〉 3.3m以上
〈深さ〉 1.7m
〈埋土〉 灰褐色土

〈主な遺物と時期〉

瀬戸美濃陶器碗(志野)・
皿・播鉢・鉢、羽釜、ほうろく、瓦、火打石?
(チャート礫)。17世紀前半。

〈遺構の性格〉

廃棄土坑か



写真34 SK24 (西から)



写真35 SK24 (北から)



写真36 主な出土遺物

● SK25

〈形状〉 楕円形か
 〈長さ〉 3 m以上
 〈幅〉 1.2 m以上
 〈深さ〉 0.55 m
 〈埋土〉 灰褐色土

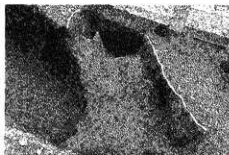


写真37 SK25

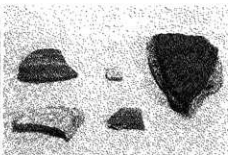


写真38 主な出土遺物

〈主な遺物と時期〉 瀬戸美濃陶器播鉢・鉢・志野小片、内耳鍋?、瓦。17世紀初～前半。

〈遺構の性格〉 廃棄土坑か

● SK08 (SD)

〈形状〉 溝状
 〈長さ〉 10 m以上
 〈幅〉 2 m
 〈深さ〉 1.44 m
 〈埋土〉 灰黄褐色土

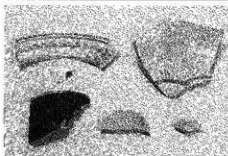


写真39 主な出土遺物



写真40 SK08 (SD)

〈主な遺物と時期〉

肥前染付磁器小坏・折縁皿、瀬戸美濃陶器菊皿・鉢・蓋、銅製煙管
 (吸口)。17世紀。

〈遺構の性格〉 敷地境の溝か

● SD02・03

〈形状〉 溝状
 〈長さ〉 6.5 m以上
 〈幅〉 0.6 m
 〈深さ〉 0.41 m
 〈埋土〉 灰褐色土



写真41 SD02・03



写真42 主な出土遺物

〈主な遺物と時期〉 肥前染付磁器皿?、肥前陶器碗?、瀬戸美濃陶器碗・天目茶碗・
 鉢・播鉢、常滑壺・甃?、瓦。17世紀。

〈遺構の性格〉 不明

6 明治時代以降

●SK27

- 〈形状〉 円形か
〈長さ〉 1 m
〈幅〉 0.4 m以上
〈深さ〉 0.7 m以上
〈埋土〉 灰色土



写真43 SK27 (埋土断面)

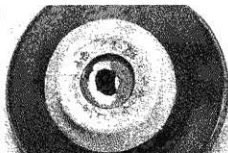


写真44 主な出土遺物

磁器碗・皿・徳利・蓋・小坏・人形(まねき猫)、陶器皿・小皿・徳利・行平鍋・ひょうそく・急須・増鉢(底部外面に「明治五年十一月十三日期切ニテ購求ス」の落書)・水鉢、ほうろく、砥石、石盤、石筆。20世紀前半。
〈遺構の性格〉 廃棄土坑か



写真45 主な出土遺物

●SK15

- 〈形状〉 長方形
〈長さ〉 2.5 m以上
〈幅〉 1.0 m
〈深さ〉 1.7 m
〈埋土〉 橙色焼土、木炭
〈主な遺物と時期〉

磁器碗・皿、陶器鍋・土瓶、ガラス瓶、磚子、金具など。20世紀中葉。

〈遺構の性格〉 防空壕→戦災の廃棄物処理か



写真46 SK15埋土断面



写真47 主な出土遺物

IV まとめ

はじめにふれたように、当遺跡は旧石器時代にさかのぼり、近世に至るまで長期に渡る良好な考古資料を包蔵する遺跡として知られている。また、近代以降も、近世に形づくられた都市基盤のうえに発達した名古屋市の中心街の一角をなしている。

今回の調査では、縄文、

古墳、近世の主に三つの時代の成果があったが、図13は、主に古墳時代頃より以前の人々が活動する地盤となっていた地形を推定するための参考図である。遺跡の東側と南側は谷地形になっていることがわかる。

当遺跡の縄文時代では、遺跡南端から田楽川遺跡にかけての縄文早期から晩期の資料の他、遺跡東端部での中、後、晩期の資料が知られていたが、今回の調査によって東端部での同時期の資料が補足されたことになった。

古墳時代では、今回の調査区より50mほど北側の消防署地点の調査で約5m四方の堅穴住居跡などが検出されており、今回検出したSK16やSX03-04の形成とほぼ同時期にあたる。包含層の広がりなどからみても5世紀前半頃では、遺跡の東側に集落が形成されていたようである。

近世では、絵図に推定位置を示した(図14)が、その根拠となる考古学的成果は特に得られていない。図15、16は、SK27、SK15などの廃棄土坑が形成された近代以降の当地点周辺の歴史的環境を示した。

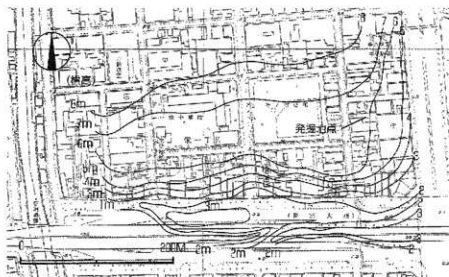


図13 遺跡付近の熱田層(地盤)上面地形推定図(柱②)(5000分の1)



図14 城下町絵図(柱③)による調査位置

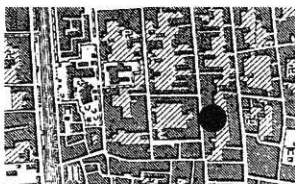


図15 明治24年頃の調査地付近



図16 第2次世界大戦による焼失部分(アミ)と調査地点

報告書抄録

ふりがな		たてみつくらどうりいせき たい14じちようさのがいよう						
書名	竪三蔵通遺跡 一第14次調査の概要一							
編集者名	水野裕之							
編集機関	名古屋見晴考古資料館							
所在地	〒457-0036 愛知県名古屋南区見晴町47 TEL 052-823-3200 FAX 052-823-3223							
発行年月日	西暦 1999年3月30日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ° °	° ° °		m ²	
竪三蔵通遺跡	愛知県名古屋市 中区栄一丁目 2434, 2435	23100	7-4	35度 9分 40秒	136度 54分 00秒	98.10.28 1 11.30	約240m ²	共同住宅建築
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
竪三蔵通遺跡	集落跡	縄文~近世	土坑、柱穴、溝 竪穴住居?	旧石器(剥片) 縄文土器、石器 弥生土器 古墳時代土師器、須恵器 中世陶器、近世陶磁器 近世瓦、近現代陶磁器				

〔註〕

- 1 「名古屋図」享保18年(1733)頃写 名古屋市蓬左文庫古地図複製No.3による。
- 2 竪三蔵通遺跡第10次調査以降の発掘調査成果を加えて修正した。
- 3 註1による。

〔参考文献〕

- 1 鈴木敏則 「東海地方の弥生銅器」『古文化論叢一伊達先生古稀記念論集一』1997 同論集刊行会
- 2 大村 直 「4戦い E鉄器」『弥生文化の研究9 弥生人の世界』1986 雄山閣
- 3 井岡弘太郎他 『明治・昭和 東海都市地図』1996 柏書房
- 4 復刻版 「名古屋市戦災焼失区域図(昭和21年刊)』1985 日地出版

竪三蔵通遺跡

一第14次調査の概要一

1999年3月30日

編集 名古屋見晴考古資料館
名古屋南区見晴町47
TEL (052)823-3200

発行 名古屋市教育委員会
名古屋市中区三の丸三丁目1番1号

印刷 株式会社クイックス



